



園庭を自然いっぱい



木々や草が春の日差しを受けて、ぐんぐん緑の葉を伸ばしています。子どもたちは、少しずつ新しいクラスにも慣れて、落ち着いてきています。

さて、津田このみ学園の園庭が4月8日に様変わりしました。保護者の皆さまも送迎時にご覧になられていると思います。園庭改造には、子どもと自然との関わりの研究をされておられる出原大先生に愛媛県から指導に来ていただき、職員が力を合わせて植え込みをしました。

なぜ、園庭を改造しているのか、どんな効果が見込めるのか、気になっておられることと思います。

今の子どもたちは、野原で遊んだり、畑で遊んだりすることはめっきり減っています。子どもたちに自然遊びを経験してほしいのですが、どこでも「自然」に触れ合えるということはありません。保護者の方が育ててこられた時には、近くの田んぼや野原で遊んだ思い出があると思います。今の子どもたちにもぜひ「自然」と触れ合ってもらいたいです。

乳幼児期は、人生で一番心の動く時期です。五感（視覚・聴覚・味覚・臭覚・触覚）を通して、「きれいだな」「虫の鳴き声がする」「甘い」「すっぱい」「いい匂い」「ざらざらする」など、豊かな感性を磨きます。自然に触れるなかで、子どもは好奇心・探究心を育み、生きる力へとつなげていきます。

豊かな環境の中で、「おもしろそう」「ためしてみたい」「やってみよう」と様々な学びを経験し、友だちと協力し、遊びを広げていってほしいと願っています。

園庭に植栽した木には、アゲハチョウを誘うサンショウの木、匂いを感じさせるハーブ、実を楽しむカキやブルーベリー、イチヂク、腐葉土に集まるダンゴムシ、など、仕掛けがたくさんあります。子どもたちがどんなことに気づき、遊びに取り入れていくのか、不思議に思ったことをどう調べ、科学する心を育てていくのか、楽しみです。

園庭に植栽したことで、体を動かす遊びができなくなるのではないかとおられるのではないのでしょうか。津田このみ学園には、園舎の北に北園庭と広い畑、屋上があります。そして、近くの公園まで出かけることも日常的にあります。そこで、鬼ごっこやかけっこ、しっぽとりなど十分に体を動かして遊ぶ保育計画を立てています。

植栽してからの園庭をみていますと、植栽で仕切られた場所は、意外にも今まで以上に遊びやすくなっているようです。遊びが繰り広げられているところを横切って走ってしまう子どもがいなくて、集中して遊んでいます。

植栽した木や草花が根付くように心を込めて育てていますが、園庭で根付くだろうか、ドキドキしながら水やりをしています。

保護者の皆さまもお仕事を終えられて、お子様のお迎えに来られた時、生命力を感じる緑に癒しを感じていただけるような場になるように育てていきたいと思っています。

